

火傷に気を付けよう！！

始めに

これから寒くなるにつれ、ストーブやこたつを使用し暖を取る機会が増えてきます。それと同時に、洗濯物や衣服に着火することにより火傷を負う危険性も高くなります。カイロや湯たんぽなどを使用する機会も増えてくるでしょう。そこで今回は、火傷を負ってしまった時の応急処置の仕方をご紹介します。正しい応急処置で悪化を防ぎましょう！



火傷を負ってしまった時の応急処置



直接水道の蛇口からの水を当てるのはNG！

①指や手足など局所の火傷

洗面器やバケツに水道水を流したまま火傷の場所を浸すか、水に浸して少し絞ったタオルや保冷剤をタオルでくるんで火傷の場所に当てるなど患部を冷やすことが大切です。

直接水道の蛇口からの水に当てるのは、**皮膚が剥がれたり、水ぶくれが破ける**ため注意が必要です。

もし、皮膚が剥がれたり、水ぶくれが破れた場合はガーゼで覆い、細菌からの感染を防ぎましょう。

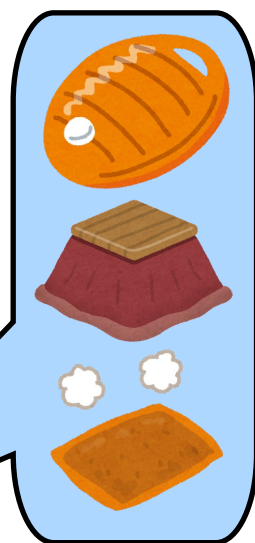
②胸や腹、背中など広範囲の火傷

広範囲のやけどは局所の火傷とは逆に長時間冷却することで**低体温に陥る危険**があり、かえって皮膚の損傷を悪化させ、**命にかかわる事態**になりかねません。

張り付いた衣服は無理に脱がさず、アルミシートで全身を覆い保温に努めましょう。その後、必ず病院へ受診するか救急車を呼びましょう。

③低温火傷

カイロやこたつ、湯たんぽなどに比較的低い温度で数分～数時間接触し続けることでおこる火傷です。**気づかないうちに重症化**する可能性があるため、使用する際は体の特定の位置に長時間触れないよう気を付けるなど発症を予防することが大切です。



編集・発行／木更津市消防署 清川分署
担当／平野・菅沼・半沢
〒292-0035 木更津市中尾1915
TEL/Fax 0438-98-7524
e-mail sho-kiyo@city.kisarazu.lg.jp

携帯電話等から119番につながらないときは

■ 慌てる事なく、周囲に助けを求め通報をお願いするか、近くの公衆電話を利用しましょう。

通信・通話障害が発生し、スマートフォンや携帯電話から119番通報がつながりにくい場合は、近隣の方やお店などに119番通報を依頼する、公衆電話を利用する、消防署に直接駆け込むなどのご対応をお願いします。

■ 公衆電話からの119番通報のかけ方



- ① 受話器をあげて赤いボタン(緊急通報ボタン)を押して下さい。
 - ② 発信音が聞こえたら110、119等をダイヤルしてください。
- ※硬貨やカードは不要です。

赤いボタンがない公衆電話の場合



救急隊のコンビニ等利用について

■ 救急隊員のコンビニエンスストアなどの利用についてご理解とご協力をお願いいたします。

救急要請が増加しており、救急隊が消防署に帰ることができず、水分補給や食事をとることが難しい状況が多くなっています。そのため、傷病者を医療機関へ搬送した後、常に救急出動できる体制を維持しながらトイレの利用、水分補給や食事のため病院内の売店・コンビニエンスストア・自動販売機などを利用することがあります。

隊員の健康管理及び救急活動の質を維持するためにも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

もしも!のときは…



119番